

高等教育計画経営シリーズ15
若者の見識・パワーとの協働――

2025年7月10日(木)

大学教育・経営への学生参画と今後の展開Ⅱ

～ 教員・職員＋学生・院生／知的コミュニティを拓く ～

- ※ [北海道医療大] 2007年度から／6学部に「学生キャンパス副学長」／導入の背景と運用の実際
- ※ [広島市立大] 『学修の手引き』改訂への学生参画／学生有志と教職員の協働プロジェクトの今後
- ※ [APU] 「特命副学長」(在校生・高校生)とは／制度の目的・概要／達成状況と課題／2期目へ
- ※ [APU] 初代在学生副学長としての1年間／立候補したきっかけと期待／取組みと学び／提言は

■ 講師陣 ■

曾山 広崇 氏 / 北海道医療大学 学務部 学生支援課
 坂本 規孝 氏 / 広島市立大学 教育基盤センター 特任講師
 浅野 昭人 氏 / (学)立命館 常務理事 立命館アジア太平洋大学 副学長
 ジャハ・アシュミ 氏 / 立命館アジア太平洋大学 初代在校生特命副学長

2025年7月10日(木) 日本教育会館会議室／オンライン



一般社団法人
高等教育計画経営研究所

日時: 2025年7月10日(木) 13:00 ~ 16:40
 会場: 日本教育会館 807会議室 (東京・神保町)
 千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL03-3230-2833
 東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」、
 A1出口より徒歩4分
 Web: 「Zoom」によるオンライン
 ※ 受講証の送付をもって参加受付となりますので
 必ずご確認ください。
 参加費: A. ご一名(資料代込) 38,000円(税込)
 B. メディア参加(資料・音声データ送付)
 39,000円(税込)
 ※ 「メディア参加」とは、
 開催当日に受講が難しい方の参加形式。
 開催後に当日配布資料及び講義の音声データを送付。
 ※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が
 悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法: 参加申込書に所要事項を記入のうえ、
 FAX または E-mail にてご送付ください。
 支払方法: 銀行振込・当日払いがあります。
 三菱 UFJ 銀行麹町支店 普通 0399197
 <口座名 (一社) 高等教育計画経営研究所>
 ※ ご請求なき場合は振込受領書を領収書に
 代えさせていただきます。
 申込先: 高等教育計画経営研究所
 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-3-10
 ライオンズマンション平河町 106
 Tel : 03 (3234) 1231 Fax : 03 (3234) 4993
 E-mail : kkkk@kotokyoiku-kken.or.jp
 HP : https:// www.kotokyoiku-kken.or.jp

＜参加申込みの折は、必ずお送りください＞

研修会参加申込書

2025年 月 日

高等教育計画経営シリーズ15

大学教育・経営への学生参画と今後の展開Ⅱ

(□に✓印を)

- 参加方式 会場参加 オンライン参加 メディア参加
 支払方法 銀行振込 当日払い
 必要書類 請求書 見積書 領収書

勤務先 _____

所在地 (〒 _____) _____

(書類宛名 _____)

TEL _____ FAX _____

連絡部課・担当者名 _____

メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
13:00 } 14:10	<p>□ [北海道医療大]「学生キャンパス副学長」制度の運用と実際 ～ 2007年度から／導入背景／制度／活動事例 ～</p> <p style="text-align: right;">北海道医療大学 曾山 広崇</p> <p>1. 学生キャンパス副学長制度導入の背景 2. 学生キャンパス副学長（SCP：Student Campus President）制度 (1) 6学部から各1名、立候補・選挙制 (2) SCP室と年間30万円のプロジェクト活動費 (3) 学内・学外イベントへの出席 3. これまでの主な活動報告事例 (1) 学生リアルヴォイスアンケート (2) 薬物乱用防止プロジェクト (3) 当別町150周年記念行事への参画 (4) 大学移転に関する学生プロジェクト、他 〈質疑応答〉</p>
14:20 } 15:10	<p>□ [広島市立大]『学修の手引き』改訂への学生参画のプロセスと実際 ～ 学生と教職員の協働プロジェクトの実践、成果、そして展望 ～</p> <p style="text-align: right;">広島市立大学 坂本 規孝</p> <p>1. 3つの成果 (1) 掲載内容の新旧～使いやすさを軸にした見直し (2) 学生目線の理解～「わかっている」から「実践できる」へ (3) 職員の能力開発～プロジェクトの原動力として 2. 協働プロジェクトの進行と舞台裏 (1) 学生有志と職員を中心とした体制 (2) アンケートとインタビューで見えた学生の声 (3) 1年間のプロジェクトスケジュール (4) 協働を実現し持続させるための働きかけや工夫 3. プロジェクトを通じた学生参画の可能性と課題 (1) 学生参画の目的に資する3つのポイント (2) 学生参画は教職員の負担増か負担減か (3) 今後の学生参画に向けて 〈質疑応答〉</p>
15:20 } 16:40	<p>□ [APU] 特命副学長（在学生・高校生）制度のねらいと今後 ～ 2期目を迎えた制度の目的、達成状況および課題 ～</p> <p style="text-align: right;">立命館アジア太平洋大学 浅野 昭人</p> <p>1. 特命副学長制度の概要 (1) 特命副学長制度は、ユーグレナCFO（最高未来責任者）がモデル？ (2) 特命副学長制度・サミットメンバーは、なぜ在校生と高校生を選んでいるの？ (3) どんな在校生、高校生が応募してきているの？ (4) どのような基準で選考しているの？ (5) APUが、特命副学長・サミットメンバーに期待していること 2. 活動内容について (1) 新しい取り組みゆえ、試行錯誤の連続～「失敗」は成功のもと (2) 活動を通じて見えてきた課題、やはり、世の中を変えるのは若い力！ (3) 大学は特命副学長の提案をどう受け止めるか 3. 今年度（2025年度）特命副学長制度の運用 (1) 前年度からの変更点 (2) 応募・選考状況 (3) 今年度の特命副学長・サミットメンバーへの期待 〈質疑応答〉</p>
16:10 } 16:30	<p>□ [APU] 在校生特命副学長としての1年間を振り返って <オンライン出講> ～ 初代在校生副学長としての期待と学んだこと ～</p> <p style="text-align: right;">初代在校生特命副学長 ジャハ・アシュミ</p> <p>1. 初代在校生副学長として期待していたこと (1) 副学長に立候補したきっかけ (2) 教職員、学生との交流を通じて感じた共同のニーズ (3) APUにもたらしたかった変化 (4) その他の期待や目標 2. 初代在校生副学長任期中の取り組み (1) 他大学などとの交流活動 (2) 大分県知事との対談をはじめとするメディアへの出演 (3) 在校生副学長の役割を超えた一学生としての活動：安藤百福奨励賞受賞 (4) 米コーネル大学ビジネスケースコンペティションで準優勝（チーム） 3. 初代在校生副学長として学んだこと (1) 一年間職務を全うしての感想 (2) サミットメンバーとの協働を通して得た気づき (3) 自身が成長したと実感した部分 (4) APUのさらなる発展のための提言 〈質疑応答〉</p>

「大学教育・経営への学生参画と今後の展開Ⅱ」セミナー

□ 趣旨

2020年～30年代の高等教育改革の最重要テーマは、教育研究及び大学経営等の内部質保証、そして、認証評価機関による外部質保証における「学生参画」の取組みと挑戦、といえましょう。

「学生参画」のテーマは、文科省の調査項目にも掲げられ始めるとともに、(公財)日本高等教育評価機構及び(公財)大学基準協会においても調査研究が実施され、報告書が出ております。

大学基準協会の調査研究報告書(2024年9月30日)においては、学生参画のタイプを5分類し、回答大学397校の割合を下記のように取りまとめています。

- ・ A 非参画型：いずれの学生参画の取組みも実施していない 6%
- ・ B 間接型：授業評価アンケートや学生実態調査の実施のみ 84.1%
- ・ C 協働型：学生と教員が協働してプログラムの評価を行う 7.3%
- ・ D 関与型：学生が学内の委員会に発言権をもって関与する 2.3%
- ・ E 意思決定参画型：学生が大学の意思決定機関に決議権をもって関与する 0.3%

貴大学・短期大学におかれては、どのタイプでしょうか？

いずれにしても、試行錯誤の段階であり、課題満載の状況にあると存じます。海外における取組み事例の調査報告も増えております。各大学における「学生参画」の仕組み・制度化と運用状況と成果・課題についての情報共有が大切と考えます。

現在、各大学・短期大学において、学生・院生の募集活動と入学者確保は、最大テーマです。その際、「大学教育・経営への学生参画」への取組みと情報公表・PRは、有効な方策といえましょう。大学という「知の共同体」に、学生・院生も協働パートナーとしての構成員として迎えます・・・と。

本セミナーでは先進的に取り組まれている3大学から4人のコアパースン氏を講師にお招きし、ご報告とともに論展いただきます。ご多用の時季と存じますが、貴大学・短期大学のコア・キーパースン各位のご参加・ご派遣についてご高配願います。